10月　中旬

令和8年度東京都中央卸売市場青果物販売概況

令和8年10月23日(金)作成

JA全農さいたま園芸販売課　大田市場駐在

TEL03-5755-9980

1. 全体の販売概況

開市日　6日（前年比±0日）

入荷量 :46，314トン（前年:47，866トン　前年比97%）　　kg単価 :357円（前年:326円　前年比110%）　※入荷量・kg単価は野菜、果実の合計

主要野菜は、だいこん・なす・白菜・小ねぎ・キャベツ・にら・レタス・ピーマン・小松菜・えのきだけ・かんしょが入荷減単価高、ほうれん草・かぼちゃ・おおばが入荷前年並み単価高、きゅうりが入荷増単価高となった。一方で、にんじん・トマト・ばれいしょ・たまねぎが入荷増単価安、ねぎ・ミニトマトが入荷前年並み単価安となった。

2. 埼玉県主要品目の販売概況（東京都中央卸売市場）

品目	項目	10月中旬 東京都中央卸売市場販売実績 本年	前年	前年比	今後の見通し（10月下旬～11月上旬）		10月中旬 出回り主力産地			摘要	
小松菜	入荷量（t）	**429**	494	87%	入荷量	→	茨城	群馬	埼玉	10月中旬結果	茨城産を主力に、群馬産・埼玉産も加わった出回りとなった。茨城産・埼玉産は天候の回復により、前旬の少なかった入荷量から大幅に増加し、群馬産は前旬並みで推移した。ほうれん草も天候が回復し、入荷量が増加したことから、葉物全般で量販店からの引き合いが弱く、荷動きも鈍かったため、荷余り感のある販売となった。入荷量は前年を下回った一方、単価は前年を大幅に上回った。相場は埼玉産AM袋が前半100-80円、後半70-50円と弱含みで推移した。
	価格（円/kg）	**464**	242	192%	価格	↘	66%	14%	11%	10月下旬～11月上旬見通し	茨城産を主力に、埼玉産も加わる出回りとなろう。関東産は天候の回復により生育が順調で、出荷量は前旬並みで推移する見込み。ほうれん草は入荷増により、相場は軟調に推移する予想。小松菜は値ごろ感から特売が組まれると予想され、10月下旬の価格は埼玉産AM袋で60-50円の弱含みを見込む。
ほうれん草	入荷量（t）	**394**	411	96%	入荷量	↗	群馬	栃木	茨城	10月中旬結果	群馬産を主力に、栃木産・茨城産も加わる出回りとなった。群馬産は天候の回復により、準高冷地・平場ともに生育順調で、入荷量は前旬を大きく上回った。総入荷量が大幅に増加したことから、相場を下げての販売となった。群馬産AM袋の価格は、前半160-150円、後半100-80円の弱含みで推移した。
	価格（円/kg）	**748**	626	120%	価格	↘	56%	18%	17%	10月下旬～11月上旬見通し	引き続き群馬産を主力に、栃木産・茨城産も加わる出回りとなろう。群馬産は準高冷地・平場ともに順調な生育が続き、出荷量は増加する見通し。値ごろ感から量販店の特売が多く組まれる予想だが、総入荷量の増加により荷余り感が強まり、販売は軟調となる見通し。10月下旬の価格は、群馬産AM袋で90-80円の弱含みを見込む。
きゅうり	入荷量（t）	**1,761**	1,309	135%	入荷量	↗	群馬	埼玉	福島	10月中旬結果	群馬産・埼玉産を中心に、福島産も加わる出回りとなった。関東産抑制作は、天候が回復し、日照不足が解消されたことにより、入荷量が前旬・前年を大幅に上回った。東北産の入荷量も前旬・前年を大幅に上回った。総入荷量の増加から荷動きが鈍く、荷余り感のある販売となった。埼玉産Aコンテナの価格は、前半3,000-2,800円、後半2,500-2,300円の弱含みで推移した。
	価格（円/kg）	**518**	430	120%	価格	↘	28%	23%	13%	10月下旬～11月上旬見通し	群馬産・埼玉産を中心に、宮崎産も加わる出回りとなろう。関東産は、例年は樹勢が衰え出荷量が落ち着く時期だが、好天が続く予報で、出荷量は横這いの見込み。宮崎産は、好天が続き、生育は順調で、出荷量は増加する見通し。総入荷量の増加に加え、量販店がサラダ向け売場を縮小する時期となるため、10月下旬の価格は、埼玉産Aコンテナで2,200-2,000円の弱含みを見込む。

品目	項目	10月中旬 東京都中央卸売市場販売実績 本年	前年	前年比	今後の見通し（10月下旬～11月上旬）		10月中旬 出回り主力産地			摘要	
ねぎ	入荷量（t）	**1,494**	1,461	102%	入荷量	↗	秋田	青森	北海道	10月中旬結果	秋田産・青森産・北海道産を中心とした出回りとなった。秋田産は、不作だった昨年に比べ入荷量が増加した。青森産・北海道産は、稲刈り作業が終了し、収穫作業が捗り入荷量は前旬に比べて微増となったが、前年と比べ減少した。総入荷量の増加から、荷動きが悪く、荷余り感のある販売となった。相場は、茨城産45本バラで前半1,800-1,500円、後半1,500-1,300円の弱含みで推移した。
	価格（円/kg）	**346**	393	88%	価格	↘	29%	18%	18%	10月下旬～11月上旬見通し	秋田産・青森産・北海道産を中心とした出回りとなろう。東北産・北海道産は、好天が続く予報で、稲刈りも終了したため、ねぎの掘り取り作業が進み、出荷ピークが続く見込み。関東産も、秋冬作の生育が進み、出荷量は増加する見通し。総入荷量の増加に加え、消費地の気温も高いため、荷動きは鈍い見通し。10月下旬の価格は、茨城産45本バラで1,400-1,300円の弱含みを見込む。
ブロッコリー	入荷量（t）	**880**	741	119%	入荷量	↗	北海道	長野	埼玉	10月中旬結果	北海道産・長野産を中心とした出回りとなった。北海道産は、好天に恵まれ、生育が順調で、入荷量は前旬を大幅に上回った。長野産は、出荷終盤だが、前旬に比べ入荷量は増加した。関東産の入荷増加もあり、総入荷量は前年を上回り、前旬を大幅に上回った。荷動きが鈍く、荷余り感のある販売となった。埼玉産AL8kgの価格は、前半3,840-3,600円、後半3,240-3,120円の弱含みで推移した。
	価格（円/kg）	**551**	563	98%	価格	↘	71%	14%	5%	10月下旬～11月上旬見通し	北海道産・埼玉産を中心に、長野産・九州産も加わる出回りとなろう。北海道産は、出荷終盤だが、好天が続く予報で、出荷量は緩やかに減少する見込み。埼玉産は、早生作が各産地で出揃い、出荷量は増加する見込み。総入荷量は横ばいの見通しで、10月下旬の価格は、埼玉産AL8kgで3,240-3,120円の弱含みを見込む。
さといも	入荷量（t）	**226**	233	97%	入荷量	↗	埼玉	千葉	愛媛	10月中旬結果	埼玉産主力に千葉産が加わる出回りとなった。埼玉産は、作柄が良好で肥大も順調で、長雨による掘り取り作業の遅れから回復しつつあるが、入荷量は前年に比べ1割減で推移した。販売面では、量販店の売り場は広がっているが、消費地は気温が高く、荷動きは鈍く、販売は軟調となった。埼玉産LL（10kg）の価格は、前半6,000-5,000円、後半5,500-5,000円の弱含みで推移した。
	価格（円/kg）	**382**	402	95%	価格	↘	68%	14%	6%	10月下旬～11月上旬見通し	埼玉産を主力に、愛媛産も加わる出回りとなろう。埼玉産は、好天が続く予報のため、掘り取り作業が進み、潤沢な出荷が続く見込み。愛媛産は、作柄が良好で、出荷量は昨年より多い見通し。総入荷量は増加し、消費地の気温も高いため、荷動きは鈍い見通し。10月下旬の価格は、埼玉産LL（10kg）で5,000円中心の弱含みを見込む。

3. 今後の見通し

なすは、高知産は、生育が順調で、台風30号による影響も少ない予想で、平年並みのペースで出荷量が増加する見込み。関東産は、出荷終盤で減少する時期だが、好天が続く予報で入荷は微減にとどまる見通し。端境の無い出荷が続くため、量販店では順次、産地切り替えが進む予想となっている。

一方で、沖縄産ゴーヤは台風30号によるハウス倒壊を懸念して被覆を剥がす対策を行っており、倒伏による出荷減と植替え期間中の出荷の谷が懸念されている。